

## 教育・養護に関する保育所の実践について

### 1. 保育の目標(保育所保育指針)

保育所は子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。このため保育所の保育は、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

(1) 生命の保持及び情緒の安定を図る = 養護

(2) 健康・人間関係・環境・言葉・表現 = 教育

\* 養護と教育の一体的な提供

### 2. 実践の一例「2歳児の上着の着脱について」

2歳児の上着の着脱では、養護的なかわりと同時に、子どもの感覚機能の分化や運動機能、他者とのコミュニケーションなど子どもの豊かな発達を支え促すための教育的意図をもったかわりを行っている。

#### <着脱のポイント>

- 着脱に興味・関心を持ち『やってみたい』という気持ちが出てくるようにしていく。

着脱に関する題材の絵本や紙芝居を用意し、繰り返し読んで聞かせる

「ひとりでできたらいいね」と一人でできることへの期待と喜びを知らせていく



#### <着脱に取り組む環境の設定>

着脱しやすい服を着用してきてもらう。

あわてずにじっくり取り組めるよう一日の流れを設定する。

近くに子どもが全身を写して見ることのできる鏡を用意しておく。

#### <関わりと援助>

必要以上に手を貸したり、焦ることのないようにする。

じっくりとやさしく見守り「もう少しだね」「できたね」など子どもが意欲的に取り組めるような言葉掛けをする

「できない」と投げ出した時や、やる気のない時は、無理をさせずに気持ちを受けとめる。できた時はたくさんほめて、一緒に喜び、自信をつけさせ、次回のステップにつなげていく。

子どもは自分でしたいという気持ちと、してほしいという甘えの気持ちがあり、その時の状況により対応する。

### <上着を着る>

上着を着やすいように広げておいたり、ロッカーから取り出しやすいように置いておき、上着に興味を持てるようにする。

「着られるかな」等の声掛けで子どもが一人で着てみようと思欲が持てるようにする。

#### ➤ 洋服のすそを持つ、かぶる、頭をだす。

「お洋服を持って、いないいないするよ！」と子どもにわかりやすく着方を知らせる。

かぶれたら「いないいない」、頭がでたら「ばあー」といって着替えが楽しくなるような遊びを取り入れる。

一人でできたら「わあーできたね。えらいね」とほめて、一緒に喜ぶ。

なかなか頭が出せない時は少し手を貸す。

#### ➤ 袖を通す。もう片方も通す。

「お手てをグーにして」「 ちゃんの  
お手て出てくるかな」と言葉を掛け見守る。

片方が出てきたら「わあー出てきたね」

「もう一つのお手ても出してみようか」と誘う。

両方できたら「できたー」といって、一緒に喜ぶ。



#### ➤ 鏡を見て整える

「おなかをしまおう、上手にできたね。ハイポーズ」と一緒に鏡を見ながら喜んでほめる。

自信がついたら「またやってみようね」と次回の期待へとつなげていく。

### <配慮事項>

個人差があるので個々の様子を十分に把握して、個々にあった関わり方をしていく。

その日の体調や機嫌なども常に考慮する。

家庭と細かく連絡を取り合い、共通理解の中で着脱の成長を見守る。